

子どもたちの「笑顔」に会いに行く

一般財団法人第一生命財団による「待機児童対策・保育所等助成事業」の第9回（2021年度）助成施設が決定した。開園間もない保育所および認定こども園に対し、保育の質向上に役立つ遊具等の助成を行う当事業には、今回、全国各地から183件の応募があり、厳正なる審査の結果、36件、総額約3000万円の助成が行われた。その中の一つ、室内の遊戯室に大型遊具を設置した富山県の幼保連携型認定こども園に、その成果についてお話をうかがった。

取材・文：斎藤夕子 photo提供：西田地方保育園

富山県富山市 西田地方保育園

チャレンジ精神を育む「あみっコアスレチック」

富山駅から3kmほど、中心市街地にも近い住宅街に位置する西田地方保育園。0～5歳児まで、定員235名を擁する大型保育所だ。2020年4月、富山市立保育所が、社会福祉法人富山国際学園福祉会に富山市より移管され、さらに翌2021年4月に幼保連携型認定こども園となり、新たなスタートを切った。

室内でも十分に からだを動かすために

1階建ての園舎は公立保育園時代か

ら受け継いだ建物を多少リフォームして使用しているという。平屋であるだけにとても広く、「園舎内を歩いているだけで、1日1万歩超えることもあるんです」と話すのは細川優子園長だ。また同様に園庭も広く、約1117㎡に及ぶ。もともとは平坦なグラウンド状だったが、築山を設けて起伏をつけ、木や草花も植えた。3階建ての木製タワーなどの遊具も設置し、子どもたちが遊びながら体力を培うことができる場へとリニューアルされた。また既存のプールもあったが、新型コロナ



●遊戯室に設置された「あみっコアスレチック」

ウイルス感染症予防のために使用を控え、その代わりに、園庭の一角に、滑り台をウォータースライダーに改良した水遊びの場も設けた。

「保育園のまわりにはあまり大きな公園がないので、子どもたちが存分からからだを動かして、元気に遊べるよう改修しました。それで園庭には築山やタワーをつくったのですが、土地柄、冬は雪も多く、夏の梅雨も長いので、室内にも園庭での遊びに代わる遊具が必要だと思い、開園時には遊戯室にアスレチックをつくりました。そして今回、助成を活用してアスレチックをさらに



上●クライミングウォールやネットのトンネルなどが増設された

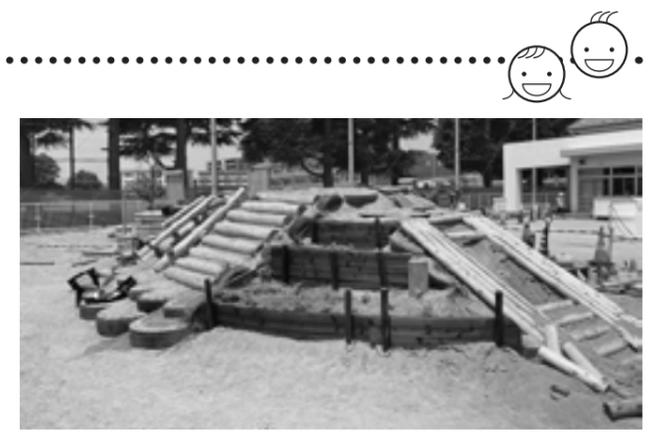
右上●一人ずつ順番にネットのトンネルを登る

右中●アスレチックの右側にある昇降口。子どもたちは「上に登ってもいい?」と声をかけあって遊んでいる

右下●アスレチックと連動する点検用の中空廊下。荷重補強も行った



上●築山や木製タワー、ウォータースライダーが配置された園庭
右●タイヤと丸太で構築された築山



充実させ、ボルダリングができるクライミングウォールやネットのトンネルなどを増設しました」

園舎のほぼ中央に位置する遊戯室は、天井の高い、広さ約252㎡の部屋だ。その壁面の一つ、点検用の中空廊下と連動するかたちで9mほどの幅をもつアスレチックが設置された。西田地方保育園では3・4・5歳児の異年齢児保育を行っており、午前中は、彼らが遊戯室で自由に遊べるようにしている。年齢別の学習機会も随時設けられているが、とくに遊戯室での遊びでは、異年齢の子どもたちが一緒にアスレチックを使うことで、年の小さい子には「自分もやりたい」というチャレンジ精神が、年の大きい子たちは小さい子に順番を譲ったり、遊びを手伝ったりしてあげることで、思いやりや社会性が育まれることが期待できるという。また、3歳未満児も広い遊戯室では伸び伸びと遊びに没頭し、2歳児でも、アスレチックに登っていく子もいるそうだ。

「アスレチックは手の力、足の力を使

ってバランスをとりながら遊ぶちょっとハードな遊具です。ですから、子どもたちが「やってみよう!」と思った時には、私たち大人が少しはサポートしますが、決して無理にやってみようには勧めません。子どもたちは、難しいことに挑戦する時は大人が思う以上に慎重です。からだのどこを使って、どこに力を入れて登ればいいのか、降りる時にはどうすればいいのかをすぐ考えて、体験しながら学んでいきます。子どもたちに任せておいた方がケガも少ないんです」

細川園長はそう教えてくれる。アスレチックの増設が完成したのは2021年11月。大型の遊具であるだけに保護者のなかには不安をもつ人もいたが、「無理はさせない」という方針を丁寧に説明すると共に、完成後にお披露目し、体験してもらうと「楽しい!」と好評を得たという。

「ネットのトンネルは一人ずつしか上り下りできないので、子どもたちは（上に誰もいない?）（下に降りてもいい?）など、何も教えなくても、お互いに声



●滑り台を改良したウォータースライダーがある水遊びスペース

を掛け合っています。何人同時に遊ぶかについても、先生が決めたルールはなく、すべて子どもたちと一緒に決めていきます。子どももって、自分たちで決めたことはとてもよく守るんですよ」

じつは「アスレチック」と呼んできたこの大型遊具の名前も、2021年12月、子どもたちに愛称を募集、園舎の一角に箱を置いて投稿してもらった結果、2名から投稿のあった「あみっコアスレチック」という名前に決定した。「あみっコ」は、今、子どもたちに人気のキャラクター「すみっコぐらし」からきた名称とのことで、選ばれた2名には、「すみっコぐらし」のシールが贈呈されたそうだ。

今回、新型コロナウイルス感染症予防のため、細川園長にオンラインでお話をうかがった。実際に子どもたちに会うことはできなかったが、細川園長の言葉からは、子どもたちが主体性をもち、いきいきとした笑顔で遊ぶ姿が、はっきりと伝わってきた。



左●200名超の子どもたちが通う西田地方保育園

上●細川優子園長